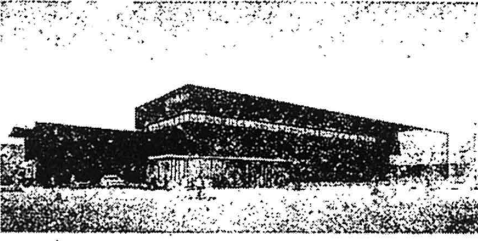
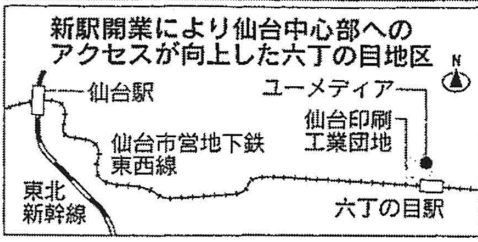


印刷工場＋交流スポット

広告・印刷業のユーメディア(仙台市)は、同市内の仙台印刷工業団地に交流拠点併設の印刷工場を新設する。紙からデジタルへの広告シフトをにらみ、新サービスの研究開発や顧客開拓に生かす。9月をめざす新工場の稼働後、交流拠点の建設に着手。新駅開業に伴って住宅開発が進むエリアの集客スポットとして、企業イメージの向上にもつなげる。



ユーメディア、仙台の工業団地に 事業拡大、住民にPR

ユーメディアが建設する新工場(イメージ)

新工場は稼働中の工場と近接する敷地に建設中で、延べ床面積は約3200平方メートル。投資額は十数億円とみられる。交流拠点「コミュニケーションセンター」は、東日本大震災などで傷んだ現在の工場を取り壊した跡地に予定。規模や詳細な機能は今後の設計で詰める。

センターは住民らとの交流を含め幅広い用途を想定。工場見学と組み合わせる企業PRや、広告事業との相乗効果が見込めるイベントなどに活用する。広く新事業のアイデアを呼び込む窓口としても期待している。

ユーメディアは主力の印刷事業のほか、ホームページ制作やスマートフォンアプリの開発、イベ

ント運営など印刷以外の事業の育成にも力を入れている。年間売上高は約31億円、そのうち印刷は7割、その他が3割を占めている。PR媒体の重心が、冊子やチラシなど紙から、インターネットサイトやSNS(交流サイト)などへの移行が進んでいることから、今野均社長は「今後は印刷以外の仕事が増えるだろう」と指摘し、社内外から人が集まるセンターを、印刷以外の事業の拡大に生かす考えだ。

仙台印刷工業団地は、約2年前に開業した仙台市営地下鉄東西線六丁の目駅の北に隣接する工業団地で、約20の印刷会社などが集まる。別の工業団地も近く工場が多い地区だが、駅の開業にあわせてマンションなども建ち、住宅地としての街づくりも進んできた。

新工場やセンターの建設はこうした街並みの変化に合わせた側面もある。新工場は白い外壁の工場が多い団地では珍しく、黒っぽいデザインとすることを計画。「いかにも印刷工場というイメージではなく、街並みに合わせた」(同社)という。地下鉄の乗降客らとの接点を増やしながら、印刷会社の新たな役割を探る。